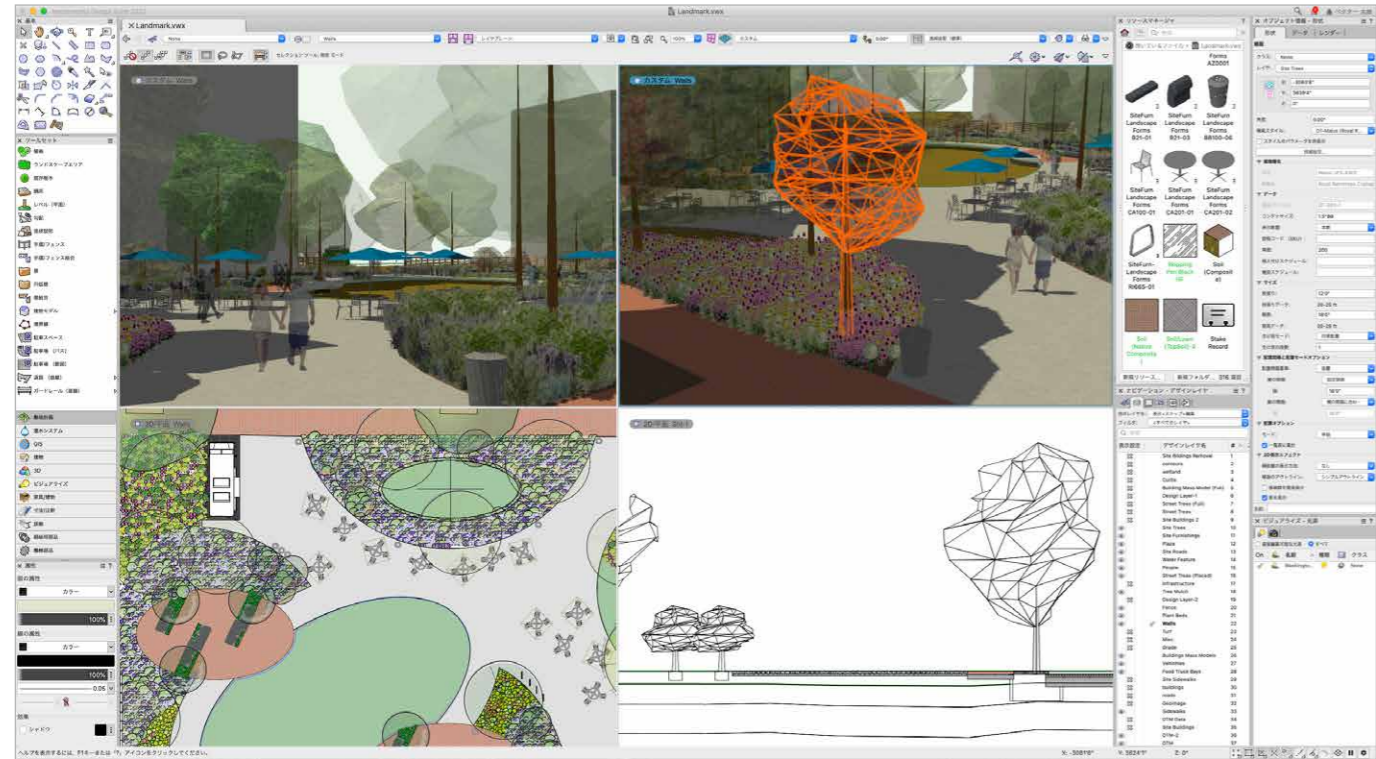


汎用作図+都市計画・ランドスケープデザイン支援機能

Vectorworks Landmarkは、高性能な2D/3D汎用作図機能と3Dビジュアライズ(テクスチャマッピング/レンダリング等)機能に加え、地形モデルや多彩な植栽、灌漑設備計画等に対応するランドスケープデザイン機能、さらには豊富な造園向けのデータライブラリを搭載した都市計画/造園業界向け製品です。

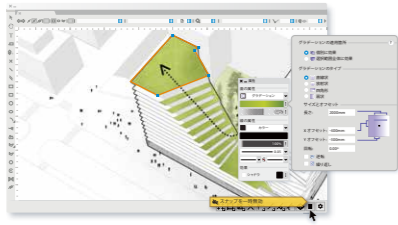
Vectorworks Landmarkの主な機能と特長をご覧いただけるオンデマンド動画です。
<https://www.aanda.co.jp/movie/QR/land/>



インターフェイス

F A L S D NEW

設計環境の利便性を高める機能が搭載されています。計画の軸に応じて図面を回転できる機能や、クラスやレイヤなどのファイル構造を一覧できるナビゲーションパレットによって、作業環境をすぐに切り替えることができます。刷新された属性パレットは設定を素早く反映し、ステータスバーに移動した各種スナップによりスムーズな作業を実現します。



データの管理と可視化

F A L S D

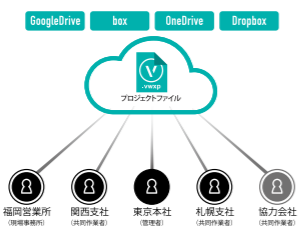
柔軟性が設計作業とマッチすることで、ワークフローはさまざまな面でスムーズになります。データマネージャの搭載により、クラス別オブジェクトやプラグインオブジェクトにカスタマイズした情報を定義・管理しやすくなりました。図面化に必要なさまざまな情報の表示にはデータタグが便利です。個別または自動的に複数のオブジェクトにタグ付けでき、時間を節約します。デザインレイヤ上でのデータの可視化にも対応しているため、パラメータごとにオブジェクトを色分けして視覚的に確認できます。



協働設計

F A L S D

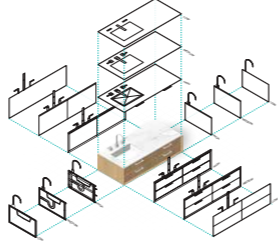
複数人で設計を進める場合、プロジェクト共有が有効な手段です。追加のソフトウェアやコストを必要とせず、共有設定をしたファイルをサーバーやVectorworks Cloud Servicesの共有フォルダに置くだけで開始できます。それぞれの状況を確認しながら、お互いの作業を干渉することなく協働設計を進めることが可能です。また、シンボルやハッチング、壁スタイルなど共通して使うリソースは、ワークグループ機能を使うことで一元管理でき、参照元のファイルを変更するだけで全員のリソースを更新することが可能です。



カスタマイズ可能なハイブリッドオブジェクトの2Dコンポーネント

F A L S D

3D環境での作業が多くなっている今、3DモデルやBIMモデルから図面を効率的に取り出す方法が求められています。ハイブリッドオブジェクトの2D表示を自由に設定できる機能が搭載されたことで、シンボルやプラグインオブジェクトの詳細度を完全にコントロールできます。どのようなハイブリッドオブジェクトでも、右クリックして編集画面に入るだけで、平面図や立面図、断面図に必要な図面表現を作図できます。



ファイル互換性

F A L S D NEW

Fundamentalsでは対応していない多くのファイル形式の取り込み/取り出しが可能で、Revitや各CADソフト、3Dソフト、グラフィックソフトとの互換を実現します。ファイルをVectorworksにドラッグ&ドロップするだけで、取り込み設定のダイアログが表示され、素早く作業に移ることができます。Vectorworks 2022からはTwinmotionとのダイレクトリンクが可能になり、プレゼンテーションの幅が広がりました。

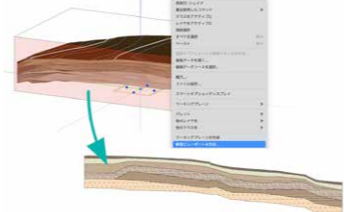
※TwinmotionダイレクトリンクはFundamentalsでもご利用いただけます。



設計環境

F A L S D

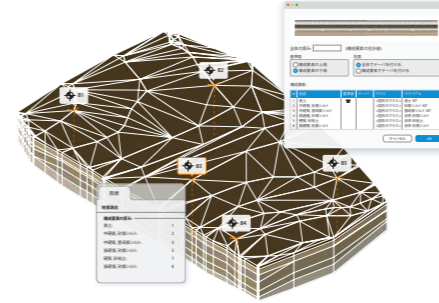
クリップキューブを使って、直感的に切断位置を決定して水平面や垂直面の断面図を取り出すことができます。取り出した立断面図は、ダブルクリックすることでオブジェクトを直接編集できます。平面のビューポートは、表示されているオブジェクトの情報をもとに色分けできるため、カラースキームなども容易に表示可能です。作成した図面は強化されたパブリッシュ機能により、PDFやイメージ、印刷などを手早く一括処理できます。



地形モデルの作成と編集

F A L S D UP

国土地理院の数値地図データや測量データ、点群データを取り込み、現況の地形モデルを素早く作成できます。また敷地形状や等高線を描画して作成することもでき、ArcGISレイヤを取り込んだりオンライン画像を地表面にマッピングさせることも可能です。Vectorworks 2022では地質層の構成要素も表現できるようになりました。



2D、3D表現が可能な豊富なライブラリ

F A L S D

屋外で使用するテーブルや椅子、ベンチ、サンシェード、ガーデンライト、植物用のプランター、パーゴラ、トレリス、アウトドアで使用できるグリルやファイヤーピット、ブランコなどの遊具、噴水、ゴミ箱、止り止めポールなど、庭や公園の構成に必要な部材は、図面にもパースにも使えるデータとして多数搭載しています。また、学名・樹種名・花期などの植栽データを定義したオブジェクトスタイルも利用可能です。



多彩なエクステリアデザイン

F A L S D UP

エクステリアデザインに必須の門扉やフェンス、屋外照明器具などの専用ツールやオブジェクトを搭載。形状を自由に変えられ、テクスチャを割り当てて木目やみず垣などの表現も可能です。Vectorworks 2022から手摺/フェンスツールが強化され、長さの扱い出しが可能になりオフセット操作が容易になりました。



便利な専用ツール

F A L S D

建物や時計台などの3D図形は、建築設計のように柱や壁など細かい設定をする必要はありません。専用ツールでサイズやテクスチャを選択するだけで簡単に作成が可能です。公園やランドスケープデザインに必要な道路や駐車場も専用ツールを搭載し、表層・基層・路盤などの舗装構成も表現することができます。



植栽計画

F A L S D NEW

2D/3Dの表現ができる植物を多数搭載。学名・樹種名・花期・用途・画像などが収録されているデータベースから、必要な情報を注釈表記して図面を仕上げられます。3D表現では、樹高と枝張りを自由にサイズ設定できるので、5年後10年後の未来予想図を提案できます。さらに、指定した範囲に複数の植物を割合で配置できるランドスケープエリアツールや、葉や花の群れでトビアリー(刈込み)も作成できる群集ツールなどで、表現豊かな景観デザインを可能にします。Vectorworks 2022では新しい根域設定により、地下を含めた植栽を表現し地形モデルへのアプローチができます。

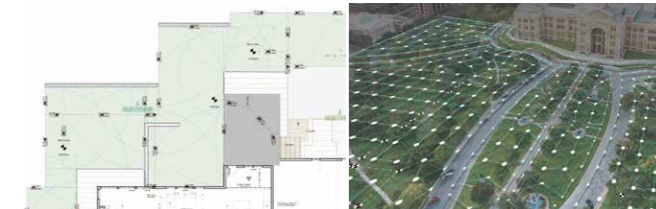


COURTESY OF PACIFIC COAST LAND DESIGN.

灌漑システム

F A L S D

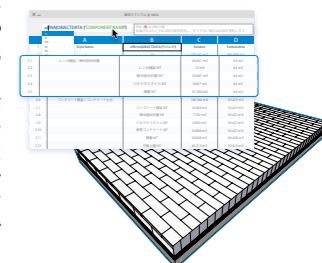
エリアを指定し、水源(接続部)・支管・バルブ・本管を作成したら、散水をポイント式とドリップ式から選択して、灌水の有効範囲を視覚的にわかりやすく表示できます。灌水部品は実際のメーカーのデータに基づき、適切な水圧や流量などの値が自動的に計算されます。



モデルとリンクした図面/レポート作成

F A L S D NEW

デザインの次に必要なものは提出物としての設計図書です。作成した3Dモデルから各種ビューポート機能を使って、平面図や立面図、断面図を取り出すことができます。モデルに含まれる情報は、必要項目を選択することで、樹木一覧表や舗装構成表、面積表を素早く作成することが可能です。設計変更などにより3Dモデルに修正があった場合は、作成済みの図面や一覧表もコマンドをワンクリックで最新状態に更新できます。Vectorworks 2022では、ワークシートの各種インターフェイスが刷新され、複雑な条件をわかりやすく設定できます。



多彩なプレゼンテーション

F A L S D

敷地の都市名を選択、または緯度経度を設定することで、日の出から日の入りまでの太陽光を再現できます。さらに3Dモデルの背景として、時刻と連動した空の表現ができるので、明るい日中のほか、夕焼けや夜のライトアップした情景を形にし、印象的なパースを作り出します。3Dモデルのプレゼンテーションとしてパソコンだけでなく、iPhoneやiPadなどのモバイル端末で外出先でも確認できます。またウォークスルーもできるため、HTCViveやOculusRiftを使うと没入感のあるVRを体験することが可能です。

